

つなぐ

Vol.56

2022.8月

1970年代よりはじまった虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈形成術はバルーン拡張のみであった。しかし、1980年代より冠動脈ステントが登場し、さらに1990年代には薬剤溶出性ステントが登場したこと治療成績が劇的に向上し、現在のPCIは虚血性心疾患の確立された治療選択肢となり、安定した成績を収めている。

その治療成績を支えるのが、冠動脈の内側から動脈硬化を診ることができる血管内超音波(IVUS)や光干渉断層法(OCT)といった冠動脈イメージングデバイス、心筋虚血の診断として冠血流予備量比(FFR)や心筋シンチグラフィといった診断検査の進化だ。

当院は昨年、FFRアンギオシステムを導入した。FFRとは狭窄病変によつてどのくらい血流が阻害されているかを推測する指標で通常は心臓カテーテル検査に続いて行う侵襲を伴う検査だ。FFRアンギオシステムは非侵襲性で、追加的な手技リスクを伴わずに冠動脈造影検査中に使用出来るシステムは臨床医と患者さんにとって大きな利益となる。

質の高いPCIにつながる診断検査システムの整備は必要不可欠だ。1981年、延吉名誉院長が日本初の経皮的冠動脈形成術を行ったあの日から、私たちは歩みを止めることなく患者さん一人ひとりにあったPCIを探索し続けている。



第65回

小倉循環器内科セミナー

2022年 8月30日(火) 18:00~18:30



動脈硬化の極み 石灰化病変へ挑む



座 長

小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児

講 師

小倉記念病院 循環器内科
部長 兵頭 真

参加方法



ZOOMによる
WEB参加のみとなります!

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

